

事務事業名	ブックスタート事業		所属部局	教育委員会		単位番号	12452							
			所属課室	市立図書館		課長名	深澤知恵美							
	<input type="checkbox"/> 実施計画事業		所属担当	楡形図書館		担当者名	望月 幸子							
基本政策	基本計画体系	V	個性と文化を育む都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	細目	細々目			
		22	生涯学習ネットワークの整備充実		01	一般	1	0	0	4	0	4	0	5
政策	35	生涯学習システムの推進	事業区分	<input type="checkbox"/> 国の制度による義務的事業 <input type="checkbox"/> 施設等維持管理事業 <input type="checkbox"/> 県の制度による義務的事業 <input type="checkbox"/> 補助金交付事業 <input type="checkbox"/> 市の制度による義務的事業 <input checked="" type="checkbox"/> その他の事業 <input type="checkbox"/> 義務化されている協議会等の負担金										
施策														
事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 15 年度)			法令根拠	子どもの読書活動の推進に関する法律									
	<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( ~ 年度)													
事務事業の概要	事業の内容・・・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 市内に生まれたすべての赤ちゃんとその保護者に、絵本2冊と図書館職員が作成した推薦リスト、図書館利用申込書、おはなし会チラシを配布し、ミニおはなし会(わらべうた、手ぶくろ人形、読み聞かせ)を行う。保護者に、子どもに読み聞かせすることは、楽しいひとときであり子どもの成長に欠かせないものであることを伝え、家庭で読み聞かせや読書の奨励を行う。			事業費の主な内訳 ( 22年度 )										
				項目(細節)				金額(千円)		項目(細節)		金額(千円)		
				消耗品費				896						
								計				896		

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	
22年度活動実績	4ヶ月健診時の会場でミニおはなし会を実施し、ブックスタートバックを手渡す。欠席者には、図書館に来館するよう連絡する。
23年度活動予定	4ヶ月健診時の会場でミニおはなし会を実施し、ブックスタートバックを手渡す。欠席者には、図書館に来館するよう連絡する。
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	
4ヶ月児とその保護者	
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)	
子どもの成長において本を読むことが大切だと知り、親子で図書館を利用する	
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)	
家庭での読書習慣を身に付け、図書館を利用する	

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア ミニおはなし会の実施回数	回数
イ 配布資料枚数	枚数
ウ 欠席者数	人数
⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 乳児数(その年に生まれた赤ちゃん)	人数
イ 保護者参加数	人数
ウ	
⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア おはなし会0. 1. 2の参加者数	人数
イ 絵本の貸出数	冊数
ウ	
⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	
名称	単位
ア 0～6歳の貸出冊数	冊数
イ 0～6歳の登録者数	人数

(2) 事業費・指標の推移		単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	国庫支出金	千円						
		県支出金	千円						
		地方債	千円						
		その他	千円						
		一般財源	千円	910	896	1,050	1,020	1,020	1,020
	事業費計 (A)		千円	910	896	1,050	1,020	1,020	1,020
	人件費	正規職員従事人数	人	9	9	9	9	9	9
		延べ業務時間	時間	70	64	64	64	64	64
		人件費計 (B)	千円	312	286	254	254	254	254
	(A)+(B)		千円	1,222	1,182	1,304	1,274	1,274	1,274
活動指標	ア	回数		118.0	149.0	134.0	134.0	134.0	134.0
	イ	枚数		3,774.0	3,660.0	3,660.0	3,660.0	3,660.0	3,660.0
	ウ	人数		21.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0
対象指標	ア	人数		629.0	610.0	610.0	610.0	610.0	610.0
	イ	人数		675.0	640.0	640.0	640.0	640.0	640.0
	ウ								
成果指標	ア	人数		1,668.0	1,401.0	1,429.0	1,457.0	1,486.0	1,516.0
	イ	冊数		110,831.0	108,149.0	110,311.0	112,518.0	114,768.0	117,063.0
	ウ								
上位成果指標	ア	冊数		25,445.0	23,891.0	24,129.0	24,371.0	24,614.0	24,861.0
	イ	人数		740.0	677.0	683.0	690.0	697.0	704.0

(3)この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか？	南アルプス市誕生の平成15年11月から実施している。ブックスタートは、赤ちゃんとその保護者が絵本を介して親子の楽しいコミュニケーションをとることによって、赤ちゃんが人間として発達することを目的にしている。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか？また、今後の予測は？	子どもの読書力の低下を懸念し、国が子どもの読書活動を推進するための事業を要求している。少子化により対象者が減っている。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか？	・保護者から「第1子と第2子が同じ絵本になるので変更して欲しい。」「プレゼントの本は今も好きでよく見えています。」等の意見が寄せられている。

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は？	<input type="checkbox"/> 取り組みしている ⇒【内容！】 <input checked="" type="checkbox"/> 取り組みしていない ⇒【理由！】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	家庭で楽しめるようにミニおはなし会にわらべ歌を追加し、ブックスタートの説明をわかりやすい内容にした。2冊のうち1冊を毎年変更している。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	変更していないあと1冊も、第1子には「いないいないばあ」、第2子には「おふろでちゃぶちゃぶ」の絵本を渡すようにする。

事務事業名	ブックスタート事業	所属部	教育委員会	所属課	市立図書館
-------	-----------	-----	-------	-----	-------

## 2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由↓】 この事業は、市が子どもの健やかな成長を願っていることを伝えるよい機会となる。また、体とあわせて心の成長を伝える意味で健康増進課で行っている4ヶ月乳児健診時に実施している。
	②公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由↓】 市内に生まれた全ての4ヶ月児と保護者を対象としている事業であり妥当だと考える。
	③維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由↓】 子どもの成長にとって絵本を介して親子で心ふれあうことが大事であり、絵本の読み聞かせをはじめるきっかけづくりになる。家庭、地域で子どもの読書をすすめるには継続が必要である。
有効性 評価	④成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由↓】 保護者に読み聞かせの大切さを伝える説明の工夫や、読み聞かせの技術向上を図り絵本の楽しさを伝えていく。継続的に家庭での読書を進めるためにさらに工夫が必要である。
	⑤類似事業との統合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることはできるか？	<input type="checkbox"/> 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入！)  <input type="checkbox"/> 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input type="checkbox"/> 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 <input checked="" type="checkbox"/> 類似事務事業がない
	⑥休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	<input type="checkbox"/> 影響なし <input checked="" type="checkbox"/> 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 全ての子どもが、絵本と出会える機会を失う。  <input type="checkbox"/> 休止・廃止ができる <input checked="" type="checkbox"/> 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 子どもの読書活動推進計画を進めるためにも、事業の廃止はできない。
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由↓】 対象者が年々少なくなってきたので削減の余地があるが、赤ちゃんの誕生には予測できない削減できない。
	⑧人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由↓】 実施回数年間24回のブックスタートに臨時職員(司書)も交代であたり実施しているので削減の余地はない。
公平性 評価	⑨受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由↓】 市内に生まれた全ての4ヶ月児と保護者を対象としている。

## 3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	・以後、小学校入学までの期間において、家庭での読書をさらに定着させるための手立てが必要である。 ・兄弟が多い家庭では、同じ本が配布されてしまうという意見が出ているので検討が必要である。 ・健康増進課との連携をし、効率的な配布方法、ミニおはなし会など検討していく。

## 4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

<div>(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可</div> <div><div><input type="checkbox"/> 廃止(目的妥当性①、②、③の結果)</div><div><input type="checkbox"/> 事業統合・連携(有効性⑤の結果)</div><div><input type="checkbox"/> 公平性改善(公平性⑨の結果)</div></div> <div><div><input type="checkbox"/> 休止(目的妥当性①、②、③の結果)</div><div><input type="checkbox"/> 成果向上(有効性④の結果)</div><div><input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(全評価項目で適切)</div></div> <div><div><input type="checkbox"/> 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果)</div><div><input type="checkbox"/> コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)</div></div> <div>(2) 改革改善案について</div> <div>①ブックスタート以後の家庭での読書推進について検討する。</div> <div>②職員が保護者に事業の内容をきちんと伝えるようにする。</div> <div>③</div>		<div>(3) 改革・改善による方向性</div> <div><table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td><td><input type="checkbox"/></td></tr><tr><th>維持</th><td><input type="checkbox"/></td><td><input checked="" type="checkbox"/></td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td><input type="checkbox"/></td><td></td><td></td></tr></table><div>※ 廃止・休止の場合は記入不要</div></div> <div>(5) 事務事業優先度評価結果</div> <div><div>成果優先度評価結果</div><div>③</div></div> <div><div>コスト削減優先度評価結果</div><div>⑪</div></div>			コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	維持	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		低下	<input type="checkbox"/>		
		コスト水準																					
		削減	維持	増加																			
成果水準	向上	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																			
	維持	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>																				
	低下	<input type="checkbox"/>																					
<div>(4) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策</div> <div>①家庭の読書の定着を図るためには、3歳児、小学校入学の児童等に本のプレゼントを行うセカンドブック事業の実施が考えられる。</div> <div>②絵本の絵本の読み聞かせの向上、わかりやすい説明、はっきりしたことば使いに心がける。</div> <div>③</div>																							